

2026年9月29日
近鉄グループホールディングス株式会社

NEWS RELEASE

大和文化会 公開講座 「世界遺産のその先へ ― 飛鳥・藤原の歴史と技を未来へつなぐ ―」 の開催について

近鉄グループホールディングス株式会社の文化事業である「大和文化会」は、2026年11月14日（土）に公開講座を銀座プロッサム 中央会館（東京都中央区銀座）で開催します。

今回は世界遺産「飛鳥・藤原の宮都」登録を記念し、「世界遺産のその先へ ― 飛鳥・藤原の歴史と技を未来へつなぐ ―」のテーマで実施します。第一部では、奈良県立橿原考古学研究所の岡林孝作氏をお招きし、「東明神古墳と飛鳥・藤原の宮都 ― 世界遺産の価値を未来に広げるために ―」という演題でご講演いただきます。第二部では、刀匠・河内國平氏と奈良県立橿原考古学研究所・吉村和昭氏をお招きし、「古代刀剣の美と技 ― 刀匠・河内國平が語る飛鳥・藤原の技術遺産 ―」という演題でトークセッションを展開いただきます。

詳細は別紙をご覧ください。



岡林 孝作 氏



河内 國平 氏



吉村 和昭 氏

■大和文化会について

「大和文化会」は、近鉄グループホールディングス株式会社が運営する文化事業で、奈良大和路の歴史・文化を紹介することを目的に、首都圏で年度会員制の文化講座を開催しています。1940年、近畿日本鉄道株式会社の前身である大阪電気軌道株式会社および参宮急行電鉄株式会社両社の東京出張所（現、東京支社）が、大和の歴史地理を勉強する「通俗地理歴史會」を発足させ、1947年、名称を「大和文化会」に改称、現在に至ります。

【大和文化会 公開講座】

1. 開催日時

2026年11月14日（土）12時40分～15時40分（開場12時00分）

2. 開催場所

銀座プロッサム 中央会館（東京都中央区銀座2-15-6）

3. 内 容

テーマ『世界遺産のその先へ ― 飛鳥・藤原の歴史と技を未来へつなぐ ― 』

（1）第一部（講演）

時 間：12時40分～14時00分

演 題：「束明神古墳と飛鳥・藤原の宮都 ―世界遺産の価値を未来に広げるために―」

登壇者：奈良県立橿原考古学研究所 学術アドバイザー 岡林 孝作 氏

（2）第二部（トークセッション）

時 間：14時20分～15時40分

演 題：「古代刀剣の美と技 ―刀匠・河内國平が語る飛鳥・藤原の技術遺産―」

登壇者：刀匠 河内 國平 氏

聞き手 奈良県立橿原考古学研究所 学芸課副主任 吉村 和昭 氏

4. 募集人員

900名（申込先着順）

5. 参加費

お一人様2,000円（大和文化会2026年度会員は1,500円）（税込）

※参加費の払い戻しはいたしませんので、予めご了承ください。

6. 応募方法

下記専用サイトよりお申込みいただくか、「8. お問合せ先」宛まで電話にてお申込み下さい。

※専用サイト URL： <https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/yamatobunkakai/toku2026>

※電話でのお申込みの方には、郵便払込取扱票をお送りいたします。（振替手数料はご負担願います）

※参加費のご入金を確認後、入場券をお送りいたします。

7. 申込締切日

2026年10月28日（水）まで

※定員になり次第締め切らせていただきますので、予めご了承ください。

※電話申込の場合は、申込締切日時が10月14日（水）17時30分、

郵便払込取扱票での入金締切日が、10月28日（水）となります。

8. お問合せ先

近鉄グループホールディングス㈱ 東京支社「大和文化会」事務局

TEL：03-3212-2051（平日9時30分～17時30分）

9. その他

- （1）当日は、奈良県にある三ツ塚（みつづか）古墳群の一角から出土した、黒漆を塗った革製の袋「飛鳥・藤原のポシェット」の復元品を特別に展示いたします。



※黒漆を塗った革製の袋「飛鳥・藤原のポシェット」の復元品

写真：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館提供

- （2）都合により講師、演題、講演時間を変更する場合があります。

《岡林 孝作氏プロフィール》

1962年大阪府生まれ。筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科中退。博士（文学）。1990年奈良県立橿原考古学研究所入所。1993年交換研究員として中国西北大学（陝西省西安市）に派遣（1年間）。2020年奈良県立橿原考古学研究所副所長（兼）附属博物館館長に就任。2023年より現職。下池山古墳、黒塚古墳、ホケノ山古墳および2006年の文化庁による高松塚古墳の発掘調査などを担当。専門は日本考古学。とくに、葬具・埋葬施設の検討を通じた、古墳時代における葬礼の復元的研究。近年は、桜井茶臼山古墳などを対象に、大和の王陵級古墳の実態解明に取り組んでいる。主な論文・著書は、『古墳時代木棺の棺内空間利用と機能』『日本考古学』第42号（日本考古学協会、2016年）、『古墳出土の釘に付着した材組織の観察から見た木棺の用材利用法と棺構造の復元的研究』（奈良県立橿原考古学研究所、2018年）、『古墳時代棺槨の構造と系譜』（同成社、2018年）など多数。

《河内 國平氏プロフィール》

1941年大阪府生まれ。1964年考古学者末永雅雄（文化勲章受章）に師事。1966年関西大学法学部卒業。人間国宝宮入昭平に入門し、相州伝を習う。1984年人間国宝隅谷正峯に入門し、備前伝を習う。2014年、現代では不可能とされた平安時代末期～室町時代の古刀が持つ地斑「映り」の再現に成功し、刀剣界最高の「正宗賞」を受賞。同年「黄綬褒章」を受章し、2019年に「旭日双光章」の叙勲を受けた、現代を代表する刀匠。奈良県無形文化財保持者。

《吉村 和昭氏プロフィール》

1964年大阪府生まれ。1987年関西大学文学部史学地理学科を卒業し、同年奈良県立橿原考古学研究所入所。2012年九州大学大学院比較社会文化学府日本社会文化専攻博士後期課程単位修得退学。奈良県立橿原考古学研究所調査課主任研究員、企画課総括研究員などを経て、2018年附属博物館学芸課長。役職停年により、2025年学芸課副主任。研究テーマは、古墳時代鉄製甲冑の研究、また、南九州の地域墓制である地下式横穴墓の分析から、同地域の社会構造、親族関係、さらには古墳時代の中央・周縁関係の研究をおこなう。近年、江戸と桑名の大名家墓所の調査研究に関わり、対象を埋葬研究全般に広げている。主な論文・著書は、「宮崎平野部における地下式横穴墓群の群構造と埋葬原理 ―六野原古墳群・地下式横穴墓群を対象として―」（『九州考古学』第90号、2015年）、「地下式横穴墓における女性と未成人への武器副葬」（『考古学は科学か 下 田中良之先生追悼論文集』編 中国書店、2016年）、「古墳時代甲冑製作技術をめぐって」（『古墳時代中期における甲冑生産組織の研究 - 「型紙」と製作工程の分析を中心として - 』科学研究費研究成果報告書、2018年）、『古墳時代の親族関係と地域社会』（同成社（共著）、2023年）、「飯田市新井原古墳群・石行古墳群出土甲冑の研究 2」（『長野県考古学会誌』166（共著）、2025年）

参考

大和文化会の概要

1. 沿革

1940年、近畿日本鉄道株式会社の前身である大阪電気軌道株式会社および参宮急行電鉄株式会社両社の東京出張所（現、東京支社）が、大和の歴史地理を勉強する「通俗地理歴史會」を発足させ、1947年、名称を「大和文化会」に改称、現在に至る。

2. 活動内容

- ・年度会員を対象に年6回（2026年度）の講演会を実施
※現在活躍中の歴史、考古学、美術史、文化などの専門家による講演
- ・会員以外の方も参加いただける「公開講座」（講演会）を開催

【最近の公開講座（講演会）】

2024年度 「倭王のイメージ - 古墳と王権 - 」

奈良県立橿原考古学研究所 学術アドバイザー 岡林 孝作 氏

「纏向遺跡とヤマト王権 - 私の邪馬台国論 - 」

桜井市纏向学研究センター 所長 寺沢 薫 氏

2025年度 「法隆寺再建と聖徳太子墓の謎」

奈良県立橿原考古学研究所 共同研究員 森下 恵介 氏

「蘇我蝦夷と入鹿の今来の双墓 - 小山田古墳と菖蒲池古墳 - 」

公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター 理事長 前園 実知雄 氏

※講師の所属・役職は、公開講座開催時のもの

3. 会員数

約830名（2026年度）

4. 大和文化会事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル7階

近鉄グループホールディングス株式会社 東京支社 TEL：03-3212-2051

以 上